

愛知登文会ニュース 第30号

令和3年11月1日号

1 事業実施報告「登録文化財保存活用シンポジウム」(2021年度)

愛知登文会は設立して11年目となりました。今年度は全3回の保存活用シンポジウムの開催を予定しています。第1回は令和3年度総会と同様、会場とオンラインの併用開催としました。

第1回 「文化財建造物の保存活用」

文化財建造物の保存活用に関して、各地で取り組まれている実践例として2つをとりあげました。

READYFORの廣安氏からは、クラウドファンディングを活用した文化財の保存活用について、成功事例のポイントとともにご紹介いただきました。成功のコツとしてプロジェクトページの作り込みなどがあげられましたが、なにより重要なのは実行者(所有者等)自身がプロジェクトの意義を理解することであると感じました。また、インターネットを通じて多くの人に届けられる仕組みだからこそ、まずは顔の見える人への根回しを怠らないということが重要とのことでした。

大阪市立大学の倉方氏からは、平成25年度より大阪市内で開催されている建物公開イベント「生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪(イクフェス大阪)」についてご紹介いただきました。「あいちのたてもの博覧会」との主な違いは、公開対象を現代建築まで広げていること、1つの自治体内でのイベントであること、補助金に頼らない資金繰りであることがあげられます。当会でも参考に、継続できる運営方式を整える必要があると感じました。

R3.10.5(火)	内容	参加者
14:00~ 16:30	①文化財×クラウドファンディング - 基礎知識と成功のコツ 講師：廣安ゆきみ氏(クラウドファンディングサービス「READYFOR」文化部門) ②文化財を生かすと、人が生きる 講師：倉方俊輔氏(大阪市立大学教授) ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次(愛知登文会会長)	31名 (会場15名、 オンライン12名、 講師・事務局4名)



▲廣安氏によるクラファンの仕組みの解説



▲倉方氏によるイクフェス活動についての解説



▲意見交換の様子

あいちのたてもの博覧会 2021 参加申込受付中!

10/16より、「あいちのたてもの博覧会2021」が始まりました。今年は現地開催と動画配信の二本立て！
 現地開催は一部を除き完全予約制です。建物見学の空き状況はホームページやフォームでご確認いただくか、受付窓口までお問い合わせください。

動画配信は昨年同様YouTubeにて配信します。11/6以降、毎日20時よりプレミア公開をしますので、ぜひ一緒に動画を楽しみましょう！

最終日には、イベントを振り返るクロージングトークをライブ配信します。参加された方、動画をご視聴された方はぜひご感想をお寄せください。

◆あいちのたてもの博覧会2021 クロージングトーク
 日時：11/21(日)17:30~19:00
 視聴方法：愛知登文会 YouTube チャンネル
 ※コメントするには、YouTubeへログインが必要です。

◆受付窓口
 メール info@aichi-tobunkai.org
 電話 052-242-3262
 (都市研究所スペース、
 平日10時~17時のみ)



予約フォーム



YouTube

2 愛知登文会便り

コロナ禍でも元気に文化財を活用！

蓮教寺 三井蓮孝

高針の民生委員さんはいつも明るく、元気で優しい人。その民生さんらが独居の高齢者や認知症の方々に声をかけてカフェを開いています。「さくらカフェ」の名で親しまれるこの会は参加がしやすいように学区のほぼ中央にあるお寺が会場となっています。

さくらカフェはコーヒーやお抹茶を飲みながら談笑し、身体と頭の体操をしたり、童謡や懐メロを歌うとても楽しい会です。コロナ禍でも爆発的な感染期間以外は活動を続けています。その理由は高齢者や認知症の方にとって、家の外に出て話をするのが何より大切との想いがあるためです。蓮教寺もこの強い使命感に共感し、気軽に集うことのできる場を提供しています。

一方で「もっと便利な施設があるのでは？」との思いもあります。民生さんに尋ねると「ここは狭すぎず、広すぎず、ちょうど良い広さ。一体感があります」「古い建物は高齢者にとって昔の思い出がよみがえる懐かしい場所です」とのことでした。

文化財の活用が叫ばれる時代にあって、私は所有する文化財の魅力をずっと探求していました。しかし、文化財の魅力は所有者よりも、それを利用する人々によって見出されるものと思うようになりました。秋から始まる「あいたて博」のように無理のない範囲で文化財を公開し、より多くの人にその良さを感じてもらうことが魅力発見への大切な一歩となっています。

最近使わない部屋を開けたらクモの巣だらけのホコリまみれだった、あるいは建物の痛みに気づけなかったとのお話を聞きます。建物を良い状態で保存するためには戸を締め切るのではなく、開ける回数を増やして風通しを良くすることが大切です。建物の文化的な価値や魅力を引き出すためには所有者以外の人も出入りをして活用していく「風通しの良さ」が大切と改めて感じました。



▲牧師さんのギターに合わせて歌う懐メロ



▲いきいき支援センターさんによる手ぬぐい体操

リニューアルから1年弱が経ちました

名古屋テレビ塔 石坂喜和

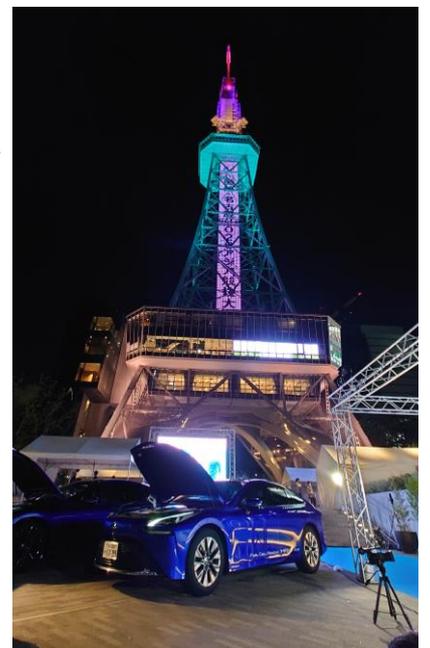
約1年前の登文会ニュース第27号では、1ページ半もの紙面を頂き名古屋テレビ塔のリニューアルについてお伝えしました。あれから1年が経ちコロナ禍のテレビ塔は何をしているのか、近況報告という名の3つの大きな出来事をお伝えします。

まず1つ目は名称が変わりました。中部電力さんと3年間のネーミングライツ契約を結び、名称が「中部電力MIRAI TOWER」となりました。ネーミングライツはスポーツ施設くらいかと思っていましたが、意外な形で当タワーにもやってきました。名称が変更した直後はほぼ毎日、電気料金の問い合わせが多かったです（笑）。ちなみに当社では対応できませんので悪しからず。

2つ目は2度目の階段駆け上がり競争を実施しました。1度目は1956年（昭和31年）に実施し、1階から高さ90メートルの展望台まで駆け上がる競争はあまりにも過酷でドクターストップがかかるなど翌年から一切行われなくなり、幻の大会となっていました。しかし、平成を飛び越え令和の時代になりその幻の大会が復活しました。415段を駆け上がる令和版は誰1人救急搬送されず安全に行われ、優勝者のタイムは1分49秒という結果で幕を閉じました。

最後の3つ目はトヨタの燃料電池車「MIRAI」の電源から2026年に愛知県で開催されるアジア大会のエンブレムのカラーである赤・紫・金・緑の4色のライトアップを行いました。持続可能な社会をめざすSDGsのイベントのゼロエミッションチャレンジとしての点灯です。平成元年にナトリウム灯によるライトアップを初めた当タワーですが、自動車の電源からライトアップとは時代も技術も進歩がすごいですね。

以上、近況報告でした。



▲アジア競技大会をテーマとするライトアップ



中部電力
MIRAI
TOWER

新しいロゴ ▶

そうだ 美術館、行こう

古川美術館 伊藤洋介

未曾有のウイルス禍は、「美術館で芸術を鑑賞する」意義について、あらためて自身に問い直す機会となりました。

古川美術館と分館の爲三郎記念館（旧古川爲三郎邸）へご来館くださるお客様は、さまざまな理由や動機、期待を持ってお越しくださいますが、最近では、特にビジネスパーソンに求められるスキルとして、教養としての芸術鑑賞が注目を集めていると感じます。

例えば、爲三郎記念館の部屋を間仕切る欄間や襖には「源氏香紋」や「つぼつぼ紋」などの紋様がほどこされていますが、その意味を知らなければ、数寄屋建築の面白味や趣向を感じとり共有することはできません。こうした文化的な教養によりもたらされる「人の価値」や「信頼感」はWebやHow to 本などでは得られない、揺るぎないものだと思います。

そして、先行きが不透明な現在、何より重要なのは、「美術館で芸術を鑑賞する」ことにより、自分の感情を揺さぶり、クリエイティブな思考を呼び戻すことだと思います。

芸術は経済的な合理性とはかけ離れた存在で、人間の創造性の極地だともいえます。何かを表現するために理屈やロジックを選んでないわけですから、伝えたいことは、作品を鑑賞して感じたありのままの感情の動きそのものです。美術館で芸術を鑑賞し、こうした自身の感情の動きと対話をしていくことで創造性が養われ、凝り固まった自分の常識やバイアスを解きほぐすことができます。

かつて14世紀のヨーロッパで深刻な被害をもたらしたペストの大流行が、のちにルネサンスという創造的な時代を形成したといわれています。正解が得られない不安感が続く一方で、テクノロジーが目まぐるしく進む今だからこそ、「そうだ 美術館、行こう！」です。



▲源氏香紋



▲木瓜型無双窓



vol.10

旧石原家住宅

幕末期1859年、当時の石原家の当主、石原東十郎が建てさせた旧石原家住宅。新しい価値観へと激変しようとしていたその時代に、もし自分が生きていたら…。思い巡らすほどに「この家は、築約160年です」今まで幾度となく自分が口にしてきたかたしな言葉がペラッペラに思えて、愕然とした。

長く同じやり方を続けていると澁のようなものが溜まってくる。それは誰もが意識的にも無意識的にも感じることだろう。人間は、他の生きものの例に漏れず、どんなに理性や情が勝っていたとしても、生理現象に抗えないのと同じくらい細胞レベルで新しく生まれ変わっていくことを止められないんじゃないか。歴史だってそういつている気がする。

東十郎さんは石原家を盛り立てて、横浜に支店を出した。地域の庄屋も務めた。先代は、実子を追い出してまで、近くの商家の手代だった彼を嫡子として迎えたという。近所の寺社への寄進がきっかけで京都の三条家と縁を持ち、勤皇の志士を支援していた。

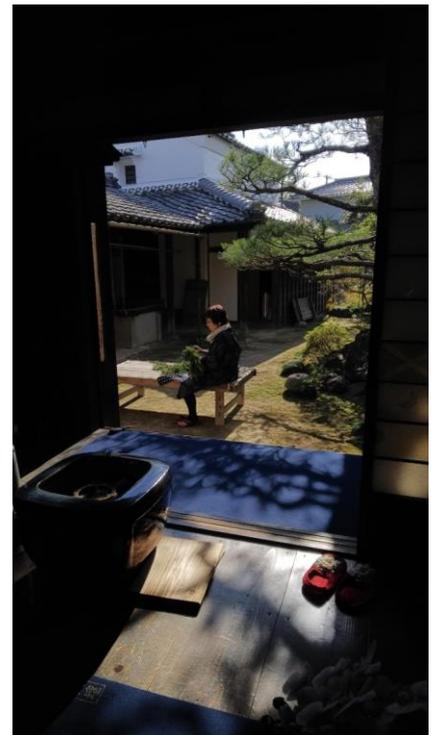
家の作りをみると、いかにも反体制派を匿う気満々らしき仕掛けが残っている。

時は下り、昭和の初めに私の母がこの家で生まれた。東十郎さん以来、石原家には女の子しか生まれず代々養子を貰ったそうだ。代々の当主に血の繋がりが無いのも「家」としての大きな生まれ変わりのように思われてくる。

母は伯母たちの反対を押し切って私の父と一緒に住んだ。何を求めてだったのか…父は、とにかく新しいことをやりたい人間だった。そんな二人の元に私は生まれた。人生の波々を経て、出会い結婚した人は、西南戦争の最大の激戦地、田原坂辺りで育った人だった。その熊本(肥後)では、愛知県出身の加藤清正公が立身出世して清正公さん(せいしよこさん)と今も愛されている。

寄稿する機会を頂いて、つらつらと考えていると、家も人も深い縁と生まれ変わりによって生き延びてきているのだなあ…とちょっと新しい目で石原家のことを感じる事ができた。

旧石原家住宅所有者 大辻織絵



3 事業実施報告「文化財ガイド育成事業」(2021年度)

あいちのたてもの博覧会における建物解説をより魅力的なものとするための事業で、今回で5度目の開催です。「あいたて博」の解説者を中心に、建物ガイドに関心のある方にご参加いただきました。

文化財ガイド育成のための見学講習

建物見学や意見交流を通して、より魅力的な文化財ガイドを学ぶための講習会です。前半は会場となる登録文化財のモデル解説を行い、後半は参加者の経験交流・意見交換を行います。

今年度は、知立市にある知立神社で行いました。この神社には、尾張造といわれる社殿のほか、重要文化財の多宝塔、明治天皇と縁のある養正館といった見どころが多くあります。建築史家の村瀬氏と知立神社権禰直(ごんねぎ)の野々山氏の案内のもと、拝殿より奥の祭文殿、幣殿まで見学させていただきました。見学会の後はホールにて文化財ガイドについての経験交流を行いました。ツアー形式の進め方や、専門用語の取り扱い、動画撮影について、一般の方により面白く思ってもらうため、皆さんそれぞれが考え工夫されているようでした。

日時	場所	講師	参加者
2021.9.22(水) 14:00~16:00	知立神社	村瀬良太氏(建築史家) 野々山麻怜氏(知立神社)	13名



▲社殿形式の解説



▲養正館の見学



▲経験交流の様子

あいたてカード7枚追加 & Ver.2 を作成!

「あいたてカード」は、令和元年にあいたて博に合わせて制作したトレーディングカードで、その年の公開対象50か所について、建物情報や見どころをそれぞれ1枚にまとめたものです。

昨年はあいたて博がオンライン開催だったため配布の機会が減ってしまいましたが、今年現地開催を実施するにあたり、新たに7枚のカード(No.51~No.57)を追加しました。また、発行済みのカードのうち今年公開する建物については、Ver.2を作成しました。

このカードは、建物を見学された方で希望される方にお渡ししています。あいたて博ご参加の際や、通常公開されている建物についてはお立ち寄りの際に、思い出を持ち帰るつもりでぜひ1枚お持ち帰りください。表面の図柄は愛知登文会ホームページでも公開しています。

あいたてカードのページ ▶



編集後記

コロナ禍でのイベント開催も2年目となり、情勢的にも運営側の余裕的にも、現地開催も併用できるようになってきました。当会も多くの企業と同じように、コロナ禍を機会にZoomや各種SNSを新しく始めましたが、中でも積極的に更新しているのは変わらずfacebookです。特に秋は更新多め。あいたて博の動画撮影の様子や冊子取材の様子など、制作の裏側をお届けしていますので、ぜひご覧ください。

次号はあいたて博についてご報告します。

愛知登文会ニュース 第30号

発行日: 令和3年11月1日
 発行者: 愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番15号
 名古屋テレビ塔株式会社内
 TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561
 E-mail info@aichi-tobunkai.org
 HP http://www.aichi-tobunkai.org
 Facebook @aichi.tobunkai
 LINE(自動応答) 533rydvi でID検索
 またはQRコード読み込み



LINE